

2025年度一般選抜(学部学科試験・共通テスト併用方式)
記述式問題 解答例

学部・学科:2月7日 文学部 史学科

問8 選択した問い番号 ①

近畿・四国に領国をもち堺の商人と結ぶ細川氏と、西国に勢力をもち博多の商人と結んだ大内氏は、遣明船貿易の主導権をめぐる争っており、1523年、両氏があいついで派遣した遣明船は、寧波において武力衝突をひき起した。(102字)

問8 選択した問い番号 ②

古代では、現世と来世の居住区、すなわち墓地を明確に分けることで都城の清浄性を保ち、支配者・国家の威信を維持しようとした。また、開発が進む都城内部で、利用できる土地を確保する実質的な意味もあった。(97字)

問8 選択した問い番号 ③

14～15世紀にかけて、フランドルとギューエンヌの争奪を背景としたイギリスとフランスの抗争で、当初はイギリス軍が優勢であったが、最終的にはフランスが勝利した。両国とも封建諸侯の力が後退し、中央集権化が進んだ。(102字)

問9 選択した問い番号 ①

10世紀には律令体制がいきづまり、中央集権的な国家体制を維持できなくなったため、都城を建設することはできなくなるが、11世紀には、荘園・公領が展開し、公家、寺社、のちには武家が独自の権力を形成するなど、権力が分散した上、王朝の交替や異民族との緊張関係が無いいため、都城が必要とされることもなかった。(146字)

問9 選択した問い番号 ②

第二次世界大戦において、1940年5月に、ドイツ軍はオランダ・ベルギーに侵入し、両国を降伏させた後、翌月にパリへ向けて総攻撃を仕掛け、短期間で電撃的に占領できたことの要因の一つとなったと考えられる。その結果、フランスはドイツに降伏し、ペタンを首班とするヴィシー政府が成立したことにより、第三共和政が崩壊した。(151字)

問10

1467年から細川方と山名方に分かれた軍勢が京都を主戦場として戦った応仁の乱により、戦火に焼かれた京都は荒廃した。この頃、京都には富裕な商工業者である町衆を中心とした自治的団体である町が生まれ、町が集まって町組という組織がつくられ、町や町組は町衆の中から選ばれた月行事の手によって運営されていた。この乱で焼かれた京都は、これら町衆によって復興され、祇園祭も町を母体とした町衆たちの祭として再興された。(200字)